

研究課題 (テーマ)		医薬品工学学生実験の開発と試行	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	医薬品工学科	教授	榊 利之
研究結果の概要			
<p>本プログラムでは、学部 2,3 年次において実施する学生実験（医薬品工学実験）について、医薬品工学科の担当教員による検討会議を開催し、実習内容の検討と実施方法の妥当性について検討した。今後、学生実験室を仮校舎から新棟に移設する予定のため、必要物品の導入は計画的且つ段階的に進めている。</p> <p>具体的には以下の点について検討した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 既存設備を用いた学生実験の試行に基づく実習案の作成、必要備品の購入 2) 学生実験室内に新規導入した備品による学生実験の再試行 3) 実験テキスト案の作成 <p>医薬品工学実験 1-7 に関する医薬品工学科の教員 12 名の分担を議論し、医薬品開発に特化した本学科の教育・研究の魅力や特色を表すような実習内容に設定した。</p> <p>当該年度より開始した学部 2 年生次に実施する医薬品工学実験 1,2 では、基礎的な実験操作を習得することを目的とし、物理化学、分析化学、有機化学を基礎とした実習を行うとともに、実験を安全に実施するための安全教育や廃液処理法に関する講義を実施した。</p> <p>学部 3 年次の医薬品工学実験 3-7 では、医薬品工学分野の専門的な技術・知識を取り扱う内容に設定し、その一部については県薬事研にて実施することとした。</p> <p>医薬品工学分野の研究は多岐に渡るが、本プログラムを通して、各研究分野のエッセンスを習得できるような実習内容の選択について大いに議論し、各実習案を精査することができた。また教育効果を高めることを目的に、実習順序についても検討した。また新学科における教員間の連携を深めた点も大きな成果の一つである。</p> <p>必要備品の一部については導入を進めることができたものの、整備が間に合っていない器具・備品もあるほか、初年度の実施内容を見直し、最適化する必要があると考えている。より円滑・安全な実習を目指し、実習内容の検討・調整を継続的に実施している状況にある。</p>			
今後の展開			
<p>本プログラムにおいて決定した実習内容で H31 年度前期の医薬品工学実験 3-7 を実施する。現在もなお、実験テキストの作成と担当者間の調整を進めている。なお、本プログラムの効果は学生実験実施後（今年度以降）に明らかになると考えている。各実習を終えた後で、実習内容・実習時間・経費の妥当性について再度検討し、円滑で、教育効果が高く、本学科の魅力や特色を表すような学生実験の創出を目指し、議論を続ける。</p>			